



八幡小だより

北九州市立八幡小学校
校長 田頭 麗宏



向日葵の一茎一花咲きとほす 津田 清子

ひまわり（向日葵）は、太陽に向かって大きな花を咲かせます。一本の茎と一つの花で暑い夏を咲き通している様子を見ると、強い意志をもってたくましく生きる人間の姿と重なるように感じます。我慢の多い日々を過ごす中、勇気づけられるような気がしてきます。



さて、1学期のまとめの月を迎えました。たった3ヶ月余りですが、1年生をはじめ子どもたちにとって大きな成長が見られた期間だったことが分かります。学期末という節目を迎える

にあたり、一人一人が立てためあてをもとに、自分のどこが成長したのか、今後どんなことをがんばればよいのかを、しっかり確かめさせることが大切だと思います。



お^{こと}箏をいただきました

使われなくなり仕舞われたままの箏、つまり「休眠箏」を学校に寄贈する活動をしているNPO法人「和楽啓明」の方から、「八幡小にも…」というお誘いがあり、ありがたくいただくことになりました。元々、箏奏者の千葉様のお箏とのことです。

14・15日には、個人懇談会が予定されています。予定していた家庭訪問ができなかったため、直接お話ができる最初の機会になります。学校と家庭の子どもたちの様子について情報交換する有効な場になりたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

小学校の音楽科では、4年生の教科書に初めて箏が登場します。普通なら、教科書の写真を見て学習するのですが、今後は実物を使って学習することができます。それだけでなく、我が国の伝統文化に直接触れて興味をもつきっかけになると思います。



本年度も釜石市とつないで「防災・減災オンライン授業」を受けました

先月24日（木）に、5年生の子どもたちが、岩手県釜石市にある「いのちをつなぐ未来館」の川崎杏樹さんによる「防災・減災オンライン授業」を受けました。この授業は昨年に続き2回目になります。川崎さんは、東日本大震災のときに中学生で、命を守るため友だちと一生懸命に避難されたそうです。今回の授業では、その時の体験談に加えて、命の大切さ、他の人との結びつきを強めることの大切さを伝えてくださいました。



総合的な学習の時間に「防災・減災」について調べている子どもたちは、本当に真剣に授業に参加していました。今後、身近な地域で発生する災害に対する意識や対応力に成長が見られることを期待しています。

9年間続ける力が 自分の未来につながる

— 今日から「家庭学習チャレンジ週間」です —

本校では、中央中学校と連携して「家庭学習チャレンジ週間」を設定しています。教室では頑張ることが「当たり前」になっている八幡っ子も、家庭学習が苦手だということがいくつかの調査で明らかになっています。残念なことに、宿題すらしない子どももいるようです。

家庭学習の意義は、まず「定着」にあります。家庭学習を続けると、忘れる量を減らすことや、記憶している期間を延ばすことができるという実験結果があるそうです。また、これからの社会を生き抜くには、「主体的に学ぼうとする姿勢」が求められます。ですから、自分で計画を立て、関心のあることを深く、また広く追究する学習姿勢が重要であり、それができる場として、家庭学習が最適なのです。



来週7日まで「家庭学習チャレンジ週間」です。ぜひ、ご家庭でも子どもたちを励まし、積極的に取り組めるようご協力をお願いします。